

記事を読んで、問いに答えなさい。

2021年4月17日朝刊

2011年の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）から約13時間後に長野県北部であったマグニチュード（M）6・7の地震は、東北沖の地震や度重なる余震の揺れが通過した影響で、近くの断層が緩やかにずれる「ゆっくり滑り」が起きた末に発生したとの研究結果を、気象庁の下條賢悟技官や京都大のエネスク・ボグダン准教授らのチームが16日、英科学誌サイエンティフィック・リポーツに発表した。

沖合の巨大地震と400キロ離れた内陸の地震をつなぐ仕組みの一端を解明した研究。今後予想される南海トラフ巨大地震

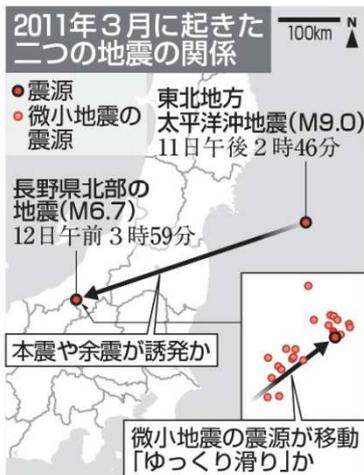
①記事は、どんな地震をつなぐ仕組みの一端について説明しているのか。

②長野県北部で地震が起きたのは、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の約何時間後か。

約（ ）時間後

③「ゆっくり滑り」は、どのようにして起きたのか。

海の地震 内陸断層刺激か



2011年3月に起きた二つの地震の関係

●震源
●微小地震の震源

東北地方太平洋沖地震(M9.0)
11日午後2時46分

長野県北部の地震(M6.7)
12日午前3時59分

本震や余震が誘発か

微小地震の震源が移動「ゆっくり滑り」か

11年3月12日の地震は長野・新潟県境付近で午

気象庁など研究

東日本大震災後、長野でM6.7

などが引き起こす内陸地震の予測手法にも発展させたいとした。

11年3月12日の地震は観測網で記録された地震の波形を詳しく解析。11日午後2時46分の東日本大震災発生以降、長野の震源付近でこれまで気象庁が把握していた数回を大きく超える285回もの微小な地震があったことを突き止めた。

その一部は、11日夜の岩手県沖の余震（M6・2）、12日未明の福島県沖の余震（M6・0）の揺れが地表付近を通ったのと同様同タイミングで発生。これらの震源は南西から北東に少しずつ移動していたことが分かり、「ゆっくり滑り」の発生を示しているとみられる。

④記事の研究は、今後どんなことに発展可能か。

年 組 名前

解答例

2021年4月17日朝刊

記事を読んで、問いに答えなさい。

2011年の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）から約13時間後に長野県北部であったマグニチュード（M）6.7の地震は、東北沖の地震や度重なる余震の揺れが通過した影響で、近くの断層が緩やかにずれる「ゆっくり滑り」が起きた末に発生したとの研究結果を、気象庁の下條賢悟技官や京都大のエネスク・ボグダン准教授らのチームが16日、英科学誌サイエンティフィック・リポーツに発表した。

①記事は、どんな地震をつなぐ仕組みの一端について説明しているのか。

沖合の巨大地震と(400キロ離れた)内陸の地震をつなぐ仕組み。

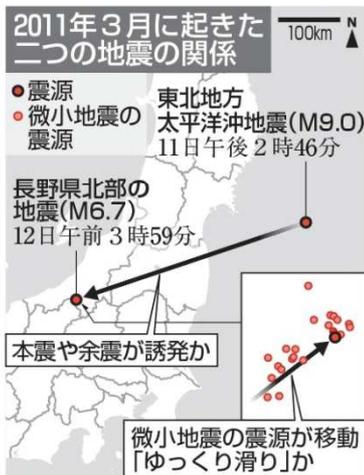
②長野県北部で地震が起きたのは、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の約何時間後か。

約(13)時間後

③「ゆっくり滑り」は、どのようにして起きたのか。

(例)地震や度重なる余震の揺れが通過した影響で、近くの断層が緩やかにずれた。

海の地震 内陸断層刺激か



気象庁など研究

東日本大震災後、長野でM6.7

などが引き起こす内陸地震の予測手法にも発展させたいとした。

11年3月12日の地震は長野・新潟県境付近で午

観測網で記録された地震の波形を詳しく解析。11

気象庁など研究

東日本大震災後、長野でM6.7

日午後2時46分の東日本大震災発生以降、長野の震源付近でこれまで気象庁が把握していた数回を大きく超える285回もの微小な地震があったことを突き止めた。

その一部は、11日夜の岩手県沖の余震(M6.2)、12日未明の福島県沖の余震(M6.0)の揺れが地表付近を通ったのと同様にタイミングで発生。これらの震源は南西から北東に少しずつ移動していたことが分かり、「ゆっくり滑り」の発生を示しているとみられる。

④記事の研究は、今後どんなことに発展可能か。

(例)今後予想される南海トラフ巨大地震などが引き起こす内陸地震の予測手法(に発展可能)。

年 組 名前